

(小児科)

【3年コース】

1. 診療科(専門領域)

小児科(小児アレルギー、小児呼吸器)

2. 研修期間

3年

3. 募集人数

2名

4. 長期目標

- ・小児気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、呼吸器感染症を含む呼吸器疾患の診断、検査、治療ができる
- ・それぞれの合併症の管理と治療計画、予後についても総合的判断ができるようになる
- ・アレルギー疾患に関する抗原感作、乳児期の栄養法などについて理解できる。
- ・IgE 抗体の推移、年齢とアレルギー疾患頻度との関連が理解できる
- ・人工呼吸器管理ができる

5. 取得手技：小児アレルギー・小児呼吸器疾患の診断に必要な検査

- ・ 問診、打診、聴診
- ・ X線写真の読影
- ・ 肺機能検査の実施と解釈
- ・ 換気、血液シンチの解釈
- ・ 皮膚テスト(スクラッチ、プリック、皮内、パッチテスト 他)の実施と解釈
 - ・ 吸入テスト(アストグラフ法、アセチルコリン、ヒスタミン、高張食塩水)の実施と解釈
 - ・ 運動負荷テスト(EIB)の実施と解釈
 - ・ 食物除去負荷テストの実施と指導
 - ・ 呼気中NO測定
- ・微生物学的検査の実施と解釈
 - ・ 喀痰、後鼻腔培養
 - ・ 迅速検査
 - ・ 気道ウイルス抗体価の解釈

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数の調査年度(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

主要疾患	入院数(年間)	目標症例数(3年間)
気管支喘息	504	150
肺炎、気管支炎・クループ	532	150
食物負荷試験	684	150
RS ウイルス感染	224	50
長期入院(喘息・その他)	4	1
アナフィラキシー	58	15
アトピー性皮膚炎	27	5
運動誘発アナフィラキシー検査	7	2
計	2033	

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 8 名、非常勤 3 名

診療科研修の指導にあたる医師 6 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 本村 知華子

// 診療科経験年数 20 年

8. コンセプト

- ・小児患者の視点に立った他職種、他施設との質の高い交流研修を実施し、視野の広い臨床医を育む。
- ・小児アレルギー・小児呼吸器専門領域の系統的な研修で、専門性に富む臨床医を育てる
- ・小児医療の質の高める臨床研究を実践する

9. 共通領域研修について

- ・週 1 回カンファレンス
- ・月 1 回症例カンファレンスの開催
- ・月 1-3 回小児アレルギー、小児呼吸器関連の研修会

卒後 3 年目

卒後 4 年目

卒後 5 年目

小児科プログラム

【5年コース】

1. 診療科(専門領域)

小児科(小児アレルギー、小児呼吸器)

2. 研修期間

5年

3. 募集人数

2名

4. 長期目標

- ・小児アレルギー疾患、小児呼吸器疾患、小児呼吸器感染症の診断、検査、治療およびそれぞれの指導ができるようになる
- ・それぞれの合併症の管理と治療計画、予後についても総合的判断ができるようになる
- ・アレルギー疾患に関する抗原感作、乳児期の栄養法などについて指導できる
- ・人工呼吸器管理の指導ができる

5. 取得手技：小児アレルギー・小児呼吸器疾患の診断に必要な検査

- ・問診、打診、聴診
- ・X線写真の読影
- ・肺機能検査の実施と解釈
- ・換気、血液シンチの解釈
- ・皮膚テスト(スクラッチ、プリック、皮内、パッチテスト 他)の実施と解釈
- ・負荷(誘発)試験の実施と解釈
 - ・吸入テスト(アストグラフ法、アセチルコリン、ヒスタミン、高張食塩水)の実施と解釈
 - ・運動負荷テスト(EIB)の実施と解釈・最大酸素摂取量、呼気ガス分析
 - ・食物除去負荷テストの実施と指導
- ・アレルギー性炎症の評価(呼気中NO測定)
- ・微生物学的検査の実施と解釈
 - ・喀痰、後鼻腔培養
 - ・迅速検査
 - ・気道ウイルス抗体価の解釈
- ・気管支内視鏡検査

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数の調査年度(平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月)

主要疾患	入院数(年間)	目標症例数(2年間)
気管支喘息	504s	150
肺炎、気管支炎・クループ	532	150
食物負荷試験	684	150
RS ウイルス感染	224	50
長期入院(喘息・その他)	4	1
アナフィラキシー	58	15
アトピー性皮膚炎	27	5
運動誘発アナフィラキシー検査	7	2
計	2033	

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 8 名、非常勤 3 名

診療科研修の指導にあたる医師 6 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 本村 知華子

// 診療科経験年数 20 年

8. コンセプト

- ・小児患者の視点に立ち他職種、他施設との質の高い交流研修を実施し、視野の広い臨床医を育む。
- ・小児アレルギー・小児呼吸器専門領域の系統的な研修で、専門性に富む臨床医を育てる
- ・小児医療の質の高める臨床研究を実践する

9. 共通領域研修について

- ・週 1 回カンファレンス
- ・月 1 回症例カンファレンスの開催
- ・月 1-3 回小児アレルギー、小児呼吸器関連の研修会

卒後 3 年目 卒後 4 年目 卒後 5 年目 卒後 6 年目 卒後 7 年目

小児科プログラム
